

## イチゴ収量向上を目指して

鹿本地域のイチゴ栽培では、「ゆうべに」や「恋みのり」を中心に、令和7年産JA共販実績で6.8ha（39戸）の作付けが行われ、主要な品目となっています。

イチゴの収量向上を目指し、3月末に高収量生産者のほ場で現地検討会を実施しました。若手生産者の参加も多く、活発に意見交換が行われ、地区を超えた若手生産者同士の交流の場となりました。また、令和8年産に向けた健苗づくりのため、4月から普及職員とJA営農指導員による個別巡回も実施しています。

近年は夏期における高温の影響で花芽分化が遅延し、収穫開始時期が遅れるなど生産が不安定になっており、花芽分化の安定化は喫緊の課題となっています。そこで、当地域では花芽分化の遅延防止に有効な低温暗黒処理（短期株冷）の導入を目指し、令和7年産から試験を開始しました。さらに、令和8年産では育苗期の高温対策による花芽分化安定化技術についても検討を進める予定です。

今後も生産者と関係機関が一体となって収量向上に向けた取り組みを進めていきます。



現地検討会の様子（3月）



個別巡回の様子（4月）